

安全データシート

作成日 2001年 4月 18日
改訂日 2024年 4月 1日

1. 化学品及び会社情報

製品名	オフィスクリーナー（フォームタイプ）
品番	OC-010
コード	62-065
会社名	プラス株式会社
住所	〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-1-28虎ノ門タワーズオフィス12F
担当部門	CSR本部 品質保証部
緊急連絡電話番号	03-5860-8005
FAX番号	03-5860-8013
E-mail	env_psc@plus.co.jp
整理番号	G06D0114
推奨用途及び 使用上の制限	キャビネットやデスク用のクリーナー

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

エアゾール : 区分1

健康に対する有害性

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 : 区分2A

特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露） : 区分1（循環器系）

区分3（麻酔作用）

特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露） : 区分1（中枢神経系）

※記載のない項目は「区分に該当しない」「分類できない」

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

極めて可燃性の高いエアゾール

高压容器：熱すると破裂のおそれ

強い眼刺激

臓器の障害（循環器系）

眠気またはめまいのおそれ

長期にわたる、または反復ばく露による臓器（中枢神経系）の障害

注意書き

【安全対策】

熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。禁煙。

- 裸火または他の着火源に噴霧しないこと。
- 使用後も含め、穴をあけたり燃やしたりしないこと。
- 取扱い後は手をよく洗うこと。
- 保護眼鏡/保護面を着用すること。
- 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
- この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
- 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。

【応急措置】

- 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- 眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当てを受けること。
- ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
- 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- 気分が悪い時は、医師の診察/手当を受けること。

【保管】

- 日光から遮断し、40°C 以上の温度にばく露しないこと。
- 施錠して保管すること。
- 換気の良いところで保管すること。容器を密閉しておくこと。

【廃棄】

- 内容物/容器を法令で指定された処理業者にて廃棄すること。

【GHS分類に該当しない他の危険有害性】

- 引火および高温による内圧上昇により破裂のおそれがある。
- 液化ガスが皮膚に触れると凍傷を生じるおそれがある。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別 : 混合物
成分及び含有量

成分	CAS No.	含有量 (wt%)	化審法官報 整理番号	PRTR 法
水	7732-18-5	80.0~90.0	-	-
(2-アミノエタノールとヤシ油脂肪酸の反応生成物)のエトキシ化物(別名:PEG-6)	61791-08-0	1.0~10.0	7-264	-
エトキシ化プロポキシ化アルコール(C=12~14)	68439-51-0	1.0~10.0	-	-
クエン酸三ナトリウム二水和物	6132-04-3	0.1~1.0	2-1323	-
トリエタノールアミン	102-71-6	0.1~1.0	2-308	-
オレンジ油	8008-57-9	0.1 未満	-	-
水酸化アンモニウム (別名:アンモニア水)	1336-21-6	0.1 未満	1-314	-
ポリ(オキシエチレン)＝アルキルエーテル (アルキル基の炭素数が12から15までのもの及びその混合物に限る。)	-	0.1 未満	-	-
ジエタノールアミン	111-42-2	0.1 未満	2-302	第一種
2-アミノエタノール (別名:モノエタノールアミン)	141-43-5	0.1 未満	2-301	第一種

プロパン	74-98-6	1.0~10.0	2-3	-
イソブタン	75-28-5	1.0~10.0	2-4	-
ノルマルブタン	106-97-8	1.0~10.0	2-4	-

4. 応急措置

- 吸入した場合 : 大量に吸い込んだ場合、被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移す。
暖かく安静にし、呼吸しやすい姿勢で休息させる。
呼吸が不規則か止まっている場合には気道を確保し、人工呼吸または酸素吸入を行う。
気分が悪くなった場合、空気の新鮮な場所で安静にし速やかに医師の手当てを受ける。
- 皮膚に付着した場合 : 付着物を布で素早く拭き取る。
多量の水と石鹼(又は皮膚用の洗剤)を使用して十分に洗い落とす。
大量に付着したり全身にかかった場合は、直ちに汚染された衣類をすべて脱ぎ、流水又はシャワー等で十分に洗い流す。
ガスの付着を受け凍傷となった場合は、衣服は脱がせずそのまま多量の水又は温水で洗い流す。
溶剤、シンナーは使用しない。
外観に変化がみられたり、痛みがある場合は医師の手当てを受ける。
- 眼に入った場合 : 清浄な水で数分間注意深く洗う。
次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は、外す。
その後も洗浄を続けること。瞼及び眼球の隅々まで洗眼する。
眼が開けられない場合、無理にあげさせない。
できるだけ速やかに医師の手当てを受ける。
- 飲み込んだ場合 : 水で口の中を洗い、安静にして、直ちに医師の診断を受ける。
揮発性の高い物質を含んでいる為、無理に吐かせるとかえって危険な場合がある(化学性肺炎を引き起こす可能性がある)。
自然に嘔吐が起きた場合、気道への吸入が起きないように身体を傾斜させる。
嘔吐物は飲み込ませない。
被災者に意識がない場合は、口から何も与えてはならない。
医師の指示による以外は無理に吐かせない。
- 予想される急性症状及び遅発性症状 : 強い眼刺激
眠気又はめまいのおそれ
臓器の障害 (循環器系)
長期にわたる又は反復ばく露による臓器の障害 (中枢神経系)
- 最も重要な兆候及び症状 : データなし
- 応急措置をする者の保護 : 換気を行う。
救助者は、状況に応じて適切な保護具(有機溶剤用の防毒マスク、保護手袋、保護衣等)を着用する。

医師に対する特別注意事項 : データなし

5. 火災時の措置

- 消火剤 : 泡(耐アルコール性)、散水又は噴霧水、炭酸ガス（容器を冷却し容器内圧を上げないもの）
- 使ってはならない消火剤 : 棒状注水
- 特有の危険有害性 : 加熱により容器が爆発するおそれがある。
内容液等が放出する恐れがある。
火災時に刺激性、毒性及び腐食性のガスを発生するおそれがある。
空気と爆発性混合気を形成する。
気化した噴射剤や有機溶剤は空気より重く、地面あるいは床に沿って移動し、遠距離引火の可能性がある。
- 特有の消火方法 : 容器が熱に晒されているときは、移さない。
移動不可能な場合は容器及び周囲に散水して冷却する。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
消火活動は十分距離をとって、風上から行う。
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
- 消火を行う者の保護 : 適切な保護具（耐熱着衣、保護眼鏡等）を着用し、空気呼吸器等を装備する。
消火活動は十分距離をとって、風上から行う。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具および緊急措置 : 付近の着火源、高温体及び付近の可燃物を素早く取り除き、風下の人を避難させ、関係者以外の立ち入りを禁止する。
風上に留まる。
低地から離れる。
密閉された場所に立ち入る前に換気する。
漏れ発生時（噴出時）には風上より処置を行う。
容器の漏出部は上向きにし、完全にガスを噴出させてから処置をする。
高濃度のガスを吸入した場合、窒息の恐れがあるので、陽圧自給式呼吸器等、呼吸器保護具を着用する。
- 環境に対する注意事項 : 河川などに排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
必要であれば、関係省官庁等へ速やかに連絡する。
- 封じ込め及び浄化方法・機材 : 液体吸収材、乾燥砂等の不燃性のものに吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収し後で処理をする。
(吸収したものを集める際には清潔な帯電防止工具を用いる)
回収物には可燃性の気体が溶解しているため、回収直後に密閉してはいけない。
気体を放出させてから容器を密閉する。
蒸気発生が多い場合は噴霧注水で蒸気発生を抑制する。

火花を発生しない工具を使用する。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
ガス等が拡散するまでその場所を隔離する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策（推奨） : 取り扱う場所の近くに、洗眼や身体を洗浄できる設備を設置する。
局所排気・全体排気 : 取り扱う場合は、局所排気内、又は全体換気の設備のある場所で取り扱う。
密閉された場所における作業には、十分な局所排気装置を付け、適切な保護具を着けて作業する。

気化した噴射剤や有機溶剤は空気より重く低い場所に滞留しやすい。
使用するにあたっては、空気中の酸素濃度が低くなる危険性があるので、密閉された場所や換気の悪い場所で取り扱わない。

安全取扱注意事項 : すべての安全注意をよく読み理解するまで取り扱わない。
使用時には、使用者にかからないように風の流れを背後から受けるようにする。
ばく露防止の為、保護具を着用して作業を行う。

ミストを吸入しない。
容器が破裂する恐れがあるので、温度が高くなる場所に置かない。
休憩所等に手袋等の汚染保護具を持ち込まない。
取り扱い後は手洗い等を十分に行い、衣服に付着した場合は着替える。
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずる等の取扱いをしてはならない。

混触禁止物質と接触しないように注意する。

接触回避 : 「10. 安定性及び反応性」を参照

衛生対策 : 取扱い後は手をよく洗う。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙しない。

保管

技術的対策 : 静電気放電に対する予防措置を講ずる。

保管条件 : 幼児の手の届かない所に置く。
直射日光を避け、通風の良い所に保管する。
缶が錆びて内容物が漏出、又は噴出する恐れがある為、水回り等の湿気の高い所での保管は避ける。

40℃以上になる所には置かない。

混触禁止物質と接触並びに同一場所での保管を避ける。

その他、消防法、労働安全衛生法等の法令に定めることに従う。

安全な容器包装材料 : 容器は、溶接、加熱、穴あけ又は切断しない。爆発を伴って残留物が発火する事がある。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度（安衛法） : 設定されていない

許容濃度	: トリエタノールアミン
※許容濃度が設定されていないものは省略	日本産業衛生学会 設定されていない ACGIH (TLV-TWA) 5 mg/m ³ ACGIH (TLV-STEL) 設定されていない
	水酸化アンモニウム
	日本産業衛生学会 25 ppm 17 mg/m ³ (アンモニウムとして) ACGIH (TLV-TWA) 25 ppm (アンモニウムとして) ACGIH (TLV-STEL) 35 ppm (アンモニウムとして)
	ジエタノールアミン
	日本産業衛生学会 設定されていない ACGIH (TLV-TWA) 0.2 ppmIFV 1 mg/m ³ IFV Skin ACGIH (TLV-STEL) 設定されていない
	2-アミノエタノール
	日本産業衛生学会 3 ppm 7.5 mg/m ³ ACGIH (TLV-TWA) 3 ppm ACGIH (TLV-STEL) 6 ppm
	プロパン
	日本産業衛生学会 設定されていない ACGIH (TLV-TWA) 設定されていない ACGIH (TLV-STEL) 設定されていない(C, EX)
	ブタン
	日本産業衛生学会 500 ppm 1,200 mg/m ³ ACGIH (TLV-TWA) 設定されていない ACGIH (TLV-STEL) 1,000 ppm(EX)
設備対策	: 排気装置を付けて、蒸気が滞留しないようにする。 取扱い設備は防爆型を使用する。 屋内作業の場合は、作業者が直接ばく露しない設備とするか、局所排気装置等により作業者がばく露から避けられるような設備とする。 タンク内部等の密閉場所で作業する場合には、密閉場所の底部まで十分に換気できる装置を取り付ける。
保護具	: 必要に応じて着用する。下記保護具は推奨であり、選定には保護具メーカーや専門家等の意見を聞いて実施する。
呼吸用保護具	: 空気呼吸器、酸素呼吸器、送気マスク等
手の保護具	: 保護手袋(不浸透性、耐薬品性等)
眼の保護具	: 保護眼鏡(ゴーグル型、側板付等)、保護面等
皮膚及び身体の保護具	: 保護衣(長袖、不浸透性、導電性)、導電性の靴、前掛け等(耐溶剤性)等

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態	: 液体（内容液） 大気圧下：ガス状／圧力容器内：液状（噴射剤）
-------	-------------------------------------

色	: 無色 - 淡黄色透明（内容液） 無色透明（噴射剤）												
臭い	: データなし（内容液） 無臭（工業用無臭のガス以外は着臭）（噴射剤）												
融点／凝固点	: データなし（内容液） 噴射剤 <table border="0"> <tr> <td>エタン</td> <td>: -183°C（融点）</td> </tr> <tr> <td>プロパン</td> <td>: -189.7°C（融点）</td> </tr> <tr> <td>ノルマルブタン</td> <td>: -138°C</td> </tr> <tr> <td>イソブタン</td> <td>: -160°C</td> </tr> <tr> <td>ノルマルペンタン</td> <td>: -129.67°C（融点）</td> </tr> <tr> <td>イソペンタン</td> <td>: -159.9°C（融点）</td> </tr> </table>	エタン	: -183°C（融点）	プロパン	: -189.7°C（融点）	ノルマルブタン	: -138°C	イソブタン	: -160°C	ノルマルペンタン	: -129.67°C（融点）	イソペンタン	: -159.9°C（融点）
エタン	: -183°C（融点）												
プロパン	: -189.7°C（融点）												
ノルマルブタン	: -138°C												
イソブタン	: -160°C												
ノルマルペンタン	: -129.67°C（融点）												
イソペンタン	: -159.9°C（融点）												
沸点、初留点及び沸騰範囲	: データなし（内容液） 噴射剤 <table border="0"> <tr> <td>エタン</td> <td>: -89°C（沸点）</td> </tr> <tr> <td>プロパン</td> <td>: -42°C（沸点）</td> </tr> <tr> <td>ノルマルブタン</td> <td>: -0.5°C</td> </tr> <tr> <td>イソブタン</td> <td>: -12°C</td> </tr> <tr> <td>ノルマルペンタン</td> <td>: 36.06°C</td> </tr> <tr> <td>イソペンタン</td> <td>: -27.8°C</td> </tr> </table>	エタン	: -89°C（沸点）	プロパン	: -42°C（沸点）	ノルマルブタン	: -0.5°C	イソブタン	: -12°C	ノルマルペンタン	: 36.06°C	イソペンタン	: -27.8°C
エタン	: -89°C（沸点）												
プロパン	: -42°C（沸点）												
ノルマルブタン	: -0.5°C												
イソブタン	: -12°C												
ノルマルペンタン	: 36.06°C												
イソペンタン	: -27.8°C												
可燃性	: データなし（内容液） 可燃性ガス（噴射剤）												
爆発下限界及び上限界、 可燃限界	: データなし（内容液） 噴射剤 <table border="0"> <tr> <td>エタン</td> <td>: 下限 3vol% 上限 12.5vol%</td> </tr> <tr> <td>プロパン</td> <td>: 下限 2.1vol% 上限 9.5vol%</td> </tr> <tr> <td>ノルマルブタン</td> <td>: 下限 1.8vol% 上限 8.4vol%</td> </tr> <tr> <td>イソブタン</td> <td>: 下限 1.8vol% 上限 8.4vol%</td> </tr> <tr> <td>ノルマルペンタン</td> <td>: 下限 1.4vol% 上限 8vol%</td> </tr> <tr> <td>イソペンタン</td> <td>: 下限 1.4vol% 上限 7.6vol%</td> </tr> </table>	エタン	: 下限 3vol% 上限 12.5vol%	プロパン	: 下限 2.1vol% 上限 9.5vol%	ノルマルブタン	: 下限 1.8vol% 上限 8.4vol%	イソブタン	: 下限 1.8vol% 上限 8.4vol%	ノルマルペンタン	: 下限 1.4vol% 上限 8vol%	イソペンタン	: 下限 1.4vol% 上限 7.6vol%
エタン	: 下限 3vol% 上限 12.5vol%												
プロパン	: 下限 2.1vol% 上限 9.5vol%												
ノルマルブタン	: 下限 1.8vol% 上限 8.4vol%												
イソブタン	: 下限 1.8vol% 上限 8.4vol%												
ノルマルペンタン	: 下限 1.4vol% 上限 8vol%												
イソペンタン	: 下限 1.4vol% 上限 7.6vol%												
引火点	: データなし（内容液） 噴射剤 <table border="0"> <tr> <td>エタン</td> <td>: -130°C</td> </tr> <tr> <td>プロパン</td> <td>: -104°C</td> </tr> <tr> <td>ノルマルブタン</td> <td>: -60°C（密閉式）</td> </tr> <tr> <td>イソブタン</td> <td>: -82.99°C</td> </tr> <tr> <td>ノルマルペンタン</td> <td>: <-40°C（cc）</td> </tr> <tr> <td>イソペンタン</td> <td>: <-51°C（密閉式）</td> </tr> </table>	エタン	: -130°C	プロパン	: -104°C	ノルマルブタン	: -60°C（密閉式）	イソブタン	: -82.99°C	ノルマルペンタン	: <-40°C（cc）	イソペンタン	: <-51°C（密閉式）
エタン	: -130°C												
プロパン	: -104°C												
ノルマルブタン	: -60°C（密閉式）												
イソブタン	: -82.99°C												
ノルマルペンタン	: <-40°C（cc）												
イソペンタン	: <-51°C（密閉式）												
自然発火点	: データなし（内容液）												

	噴射剤	
	エタン	: 472°C
	プロパン	: 450°C
	ノルマルブタン	: 287°C
	イソブタン	: 460°C
	ノルマルペンタン	: 260°C
	イソペンタン	: 420°C
分解温度	: データなし（内容液/噴射剤）	
pH	: 11（内容液）	
	データなし（噴射剤）	
動粘性率	: データなし（内容液）	
	該当しない（噴射剤）	
溶解度	: データなし（内容液）	
	噴射剤	
	エタン	: 47mg/L（水：20°C）
	プロパン	: 62.4mg/L（水：25°C）
	ノルマルブタン	: 61mg/L（水：20°C）
	イソブタン	: 48.9mg/L（水）
	ノルマルペンタン	: 360mg/L（水：16°C）
	イソペンタン	: 48mg/L（水：25°C）
n-オクタノール、 水分係数	: データなし（内容液）	
	噴射剤	
	エタン	: 1.81（測定値）
	プロパン	: 2.35
	ノルマルブタン	: 2.89（測定値）
	イソブタン	: 2.8
	ノルマルペンタン	: 2.36
	イソペンタン	: 2.3（推定値）
蒸気圧	: データなし（内容液）	
	噴射剤	
	エタン	: 3.85MPa（20°C）
	プロパン	: 0.84MPa（20°C）
	ノルマルブタン	: 0.214MPa（21.1°C）
	イソブタン	: 0.304MPa（20°C）
	ノルマルペンタン	: 0.053MPa（18.5°C）
	イソペンタン	: 0.079MPa（20°C）
密度及び／又は相対密度	: 1.008（20°C）（内容液）	
	噴射剤	
	エタン	: 0.572（-108.4°C/4°C）

	プロパン	: 0.584 (-45°C/4°C)
	ノルマルブタン	: 0.579 (20°C/4°C)
	イソブタン	: 0.6
	ノルマルペンタン	: 0.626 (20°C/4°C)
	イソペンタン	: 0.6
相対ガス密度	: データなし（内容液）	
	（ガス比重データ（空気=1）噴射剤）	
	エタン	: 1.05
	プロパン	: 1.6
	ノルマルブタン	: 2.1
	イソブタン	: 2.01
	ノルマルペンタン	: 2.5
	イソペンタン	: 2.5
粒子特性	: データなし（内容液）	
	該当しない（噴射剤）	
その他の情報	: データなし	

10. 安定性及び反応性

反応性	: 40°C以上になると破裂の恐れがある。 高温の表面、火花又は裸火により破裂し発火するおそれがある。
化学的安定性	: 通常の使用において安定している。
危険有害反応可能性	: 可燃性のガスであり、空気と爆発性混合ガスを形成し易い。 酸化性物質（プロパン：二酸化塩素、ブタン：ニッケルカルボニル+酸素）と激しく反応する。
避けるべき条件	: 高温多湿な場所での保管。 火気（火炎、スパーク等着火源）の近くでの使用。 40°C以上の高温、直射日光、静電気、衝突、火気。
混触危険物質	: 酸化剤
危険有害な分解生成物	: 燃焼等により有害なガス（一酸化炭素、二酸化炭素、窒素酸化物等）を発生する。

11. 有害性情報

※有害性は、内容液と噴射剤に分け有害性を判断した。噴射剤がガス又は気体として有害区分に該当する場合は記載した。

急性毒性（経口）	: 区分に該当しない。 ATEmix が [§] 58633.5 mg/kg 毒性が未知の成分を 2.584%含有。
急性毒性（経口）	: 区分に該当しない。（分類対象外） 毒性が未知の成分を 4.134%含有。
急性毒性（吸入：ガス）	: 本品はエアゾールであり、GHS 定義による気体ではない。 区分に該当しない。（噴射剤）

急性毒性（吸入：蒸気）	: 区分に該当しない。（分類対象外） 毒性が未知の成分を 4.449%含有。
急性毒性（吸入：粉じん / ミスト）	: 区分に該当しない。（分類対象外） 毒性が未知の成分を 4.449%含有。
皮膚腐食性・刺激性	: データ不足のため分類できない。
眼に対する重篤な損傷・刺激性	: 10×（眼区分 1+皮膚区分 1）の成分合計が、濃度限界（10%）以上のため、 区分 2A に該当。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	: データ不足のため分類できない。分類に寄与しない成分：区分 1 を含む。
生殖細胞変異原性	: データ不足のため分類できない。
発がん性	: データ不足のため分類できない。
生殖毒性	: データ不足のため分類できない。
特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）	: 噴射剤は区分 1（循環器系）、区分 3（麻酔作用）に該当。
特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）	: 噴射剤は区分 1（中枢神経系）に該当。
吸引性呼吸器有害性	: データ不足のため分類できない。（内容液）
その他	: 液化ガスが皮膚に触れると、炎症や凍傷を起こす恐れがある。

12. 環境影響情報

生態毒性	: トリエタノールアミン 魚類：TLm48 LC50>1000mg/L ジエタノールアミン 魚類：TLm48 LC50>1000mg/L アンモニア水 甲殻類：ミッドナイトシュリンプ LC5096hr:2.81-98.9mg total ジエタノールアミン 急性毒性値（魚類）=なし （甲殻類）=2.15mg/l （藻類）=2.1mg/l 出典:NITE
残留性・分解性	: データなし
生物蓄積性	: データなし
土壤中の移動性	: データなし
オゾン層への有害性	: モントリオール議定書に規制されている物質を含まない。
その他	: 現在のところ有用な情報はないが、漏洩、廃棄等の際は環境に影響を与える恐れがあるので注意する。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	: 関連法規制並びに地方自治体等の基準に従って適切な処分を行う。
汚染容器及び包装	: 廃棄をする場合には、内容物を完全に排出した後に行う。 残留した内容物を排出するときは、必ず風通しの良い火気の無い屋外で行う。

気化し多量の可燃性蒸気を発生する液化ガスが内用液に溶解しているため、回収するときはガスが抜けてから容器を密閉する。
中身が出なくなるまで排出した後でも破裂する恐れがあるので、火中に投じない。

14. 輸送上の注意

国連番号 : 1950
 品名（国連輸送名） : エアゾール(引火性のもの 1 L を超えない)
 国連分類（輸送における危険有害性クラス） : 2.1
 容器等級 : 非該当
 海洋汚染物質 : 非該当
 MARPOL73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質 : 非該当
 国内規制
 陸上輸送 : 消防法ほか法令の輸送について定めるところに従う。
 海上輸送 : 船舶安全法に定めるところに従う。
 航空輸送 : 航空法に定めるところに従う。
 緊急時応急措置指針 : 126
 (容器イエローカード) 番号
 輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策 : 運搬時には容器を40°C以下に保ち、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

15. 適用法令

化学物質管理促進法 (PRTR法) : 非該当
 労働安全衛生法 : 危険物・可燃性のガス（プロパン、ブタン）
 名称等を表示すべき危険物及び有害物 : ブタン
 名称等を通知すべき危険物及び有害物 : ブタン、トリエタノールアミン
 有機溶剤中毒予防規則 : 非該当
 毒物及び劇物取締法 : 非該当
 化学物質審査規制法 : 特定化学物質、監視化学物質に該当しない。
 優先評価化学物質
 α -ヒドロ- ω -ドデカンアミドポリ（オキシエタン-1,2-ジイル）
 （繰り返し単位の繰り返し数は2から101までの整数とする。）
 トリエタノールアミン
 ジエタノールアミン
 2-アミノエタノール
 船舶安全法 : 高圧ガス

航空法	: 高圧ガス
高圧ガス保安法	: 適用除外（液化ガス、可燃性ガス、圧縮ガス）但し、政令告示並びに高圧ガス保安一般規則規程に従う。
消防法	: 非危険物

16. その他の情報

記載内容は安全にご使用頂く為の情報提供であって、保証するものではありません。

また、注意事項は通常取扱を前提としたものなので、これらを参考にし、自らの責任において用途、用法に適した安全対策・適切な処置の実施をお願い致します。

※本書式は、JIS Z7253 : 2019 要求事項に準じて作成しております。